

国語総合 学習指導案

- 1 単元名 詩文 (『新 探求国語総合 古典編』桐原書店)
- 2 対 象 1 年A組 40 名
- 3 単元の目標 漢詩の規則を理解して味読し、作品の生まれた風土や背景について思いを至らせ、その世界観を理解する。

4 単元について

〈生徒観〉

落ち着いて授業に臨んでいるクラスである。予習ができる生徒がいる一方で、分からない部分をどのように扱ったらよいか分からない生徒もいる。辞書や文法書を繰り返し使用して慣れさせ、力をつけられるよう指導していきたい。学年全体として、何事にも積極的に取り組む姿勢があるので、グループワークを通して、漢文に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたい。

〈単元観〉

近体詩の決まりを学びながら、長年読み継がれてきた作品を味読し、作品の生まれた風土や背景などに思いを至らせる。また、自分自身でも漢詩の一部を作り上げることで漢詩の世界観を捉え、漢字のもつ広がりなどを理解し、自らの考えを表現し得る適切な言葉選びができる力を養う。

〈対話的・主体的な深い学びの手立て〉

課題に対して、自ら一文を作成することで、漢詩の決まりに基づきながら全体の内容をしっかり踏まえることができる。また、自分の考えを表すことで、言葉と向き合い、適切な表現、より良い表現を考えることができる。

5 評価項目及び規準

①観点別の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
言語文化への特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。	言語文化への特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げている。	漢詩の規則を理解し、伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、我が国の言語文化の独自の性格やその価値に気づいている。

②評価の観点と資質・能力との対応表

	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
課題発見力			
論理的思考力		○	
協働力	○		
表現力		○	
英語運用能力			
社会的・国際的洞察力			

6 単元計画

次	時	観点ごとの評価規準			評価の方法	評価規準を実現するための活動
		関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解		
1	1		言語文化への特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げている。	漢詩の規則を理解している。伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、我が国の言語文化の独自の性格やその価値に気づいている。	【記述の確認】 【小テスト】	○漢詩の規則を理解する。 ○中国の詩人を押さえる。 ○漢詩の規則を踏まえて作品を分析し、内容を理解する。
1	1	言語文化への特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。	言語文化への特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げている。		【ワークシート】 【ループリック】	○漢詩の規則を踏まえて作品を分析し、内容を把握する。 ○空欄部分を、漢詩の規則に基づいて作成する。併せて、その様にした理由を書く。 ○グループごとにそれぞれの作品を鑑賞する。

7 本時の展開 (65分)

(1) 本時の目標

- ① 漢詩の決まりに基づいて、内容を理解し、訳す。
- ② 空欄部分に、自分の考えを適切に表現した一文をあてはめ、その理由を説明する。

(2) 本時の展開

授業展開 (時間)	○学習内容と生徒の活動 ・教員の指導と手立て	評価項目及び評価方法
導入 (5)	○前回の確認 (漢詩の決まり)	
展開① (20)	○音読 (ペア)「登岳陽楼」杜甫 ・机間指導しながら躓いているペアには読み方を教える。 ○漢詩の決まりを踏まえて作品を分析する。 ・前回のプリントや文法書、資料集を参照させる。 ○内容を把握し、訳す。	読む能力【記述の確認、ルーブリック (論)】
展開② (25)	○空欄部分を、漢詩の決まりに基づいて作成する。あわせて、訳とその理由も考える。 ・対句、押韻に気づかせ、表現したいことが適切に表せるよう、辞書を利用させる。	読む能力【記述の確認、ルーブリック (論) (表)】
展開③ (10)	○グループ毎にそれぞれの一文を鑑賞する。 ・気づいたことはワークシートに記入させ、お互いに伝えさせる。 ○それぞれが作成した一文を推敲する。 ・より良い表現がないか吟味させる。	関心・意欲・態度【記述の確認、ルーブリック (協)】 読む能力【記述の確認、ルーブリック (表)】
まとめ (5)	○実際の本文と漢詩の決まりを確認する。 ・押韻についての補足説明をする。	

資質・能力のルーブリック

ルーブリック①

資質・能力	協働力	論理的思考力	表現力
項目	作成した一文を発表し、推敲する。	全体の内容に即して、一文を作成する。	自分自身が考えた情景を、適切な言葉を選び、表現する。
十分 (A)	自分が作成した一文をグループで紹介し、他者の作成した一文について感想や考えを述べ、お互いに推敲作業に活かしている。	全体の内容を正しく捉え、漢詩の纏う雰囲気にあわせて一文を作成している。	自分が思い浮かべた情景をより良く表す言葉を選び、一文をそのように作成した理由を説明している。
おおむね 十分 (B)	自分が作成した一文をグループで紹介し、他者の作成した一文について感想や考えを述べることができる。	全体の内容を正しく捉え、一文を作成している。	自分が思い浮かべた情景をより良く表す言葉を選んでいる。
やや 不十分 (C)	自分が作成した一文をグループで紹介し、お互いの推敲作業に活かしている。	漢詩の纏う雰囲気にあわせて一文を作成している。	一文をそのように作成した理由を説明している。
不十分 (D)	自分が作成した一文をグループで紹介している。	一文を作成している。	一文を作成している。

※資質・能力のルーブリックにおける評価基準は十分（A）とする。